

機能性物質による被ばく低減化研究会調べ

「東日本大震災から10ヶ月 放射線対策に関する意識調査」 約7割の人が日々の食生活から手軽に行える放射線対策に期待！

現在、何かしらの放射線対策を行っている人は約5人に1人
 お金をかけてでも放射線対策したい人は約70%
 放射線に関する基本的な情報を知っている人はわずか約30%
 日々の食生活から手軽に放射線対策を行いたいと希望する人は約70%

この度「機能性物質による被ばく低減化研究会」は、東日本大震災から10ヶ月を迎えるにあたり、全国の20代～50代男女1200名を対象に「放射線対策に関する意識調査」を実施しました。

【調査結果概要】

①震災から10ヶ月が経ち、震災直後は放射線対策をしていたのに対策をしなくなった人が増えている。対策をやめた理由は「対策方法を知らない」が多数！対策法があれば取り組みたい人は76%

震災から10ヶ月が経った今、放射線対策をしている人が5人に1人。一方で「対策をしなくなった人」も増えている。現在対策をしている人は、正しい対策なのか半信半疑で、対策をしていない人は、「対策方法を知らない」が多数。放射線対策の正しい情報の提供が求められているようである。

②お金をかけても放射線対策したい人は約70%！その中で月5000円以上かけている人は35%

放射線対策として月に5万円以上かけられる人も！
 その中でも特に乳児・幼児を抱えている人がかけている費用が高い結果に。
 小さい子供への影響を気にしていることがうかがえる。

③放射線に関する基本的な情報を知っている人はわずか約30%

「放射線を浴びることによって発生する活性酸素が人体に悪影響を与えること」を知っている人は26%。
 「活性酸素を除去するという物質について」知っている人はわずか10%！
 放射線に関する基本的な情報を知っている人が少ないことが明らかに。

④日々の食生活から手軽に放射線対策を行いたいと希望する人は約70%

「食品・飲料」からの放射線による被ばくが気になっている人は60%。
 その中でも「とても気になっている」と答えた人は乳児・幼児を抱えている人が多く、
 子供への影響を心配していることがうかがえる。

【調査概要】

- 調査日：2011年12月26日～12月27日
- 調査方法：インターネット調査
- 調査対象：全国6エリア(①北海道②東北③関東④中部⑤近畿⑥中国・四国・九州・沖縄)の20代～50代男女 計1200名 (20代～50代 男女600名ずつ)

※本リリースの調査結果・グラフをご利用頂く際は、必ず【機能性物質による被ばく低減化研究会調べ】とご明記下さい。

【本件に関するお問い合わせ先】

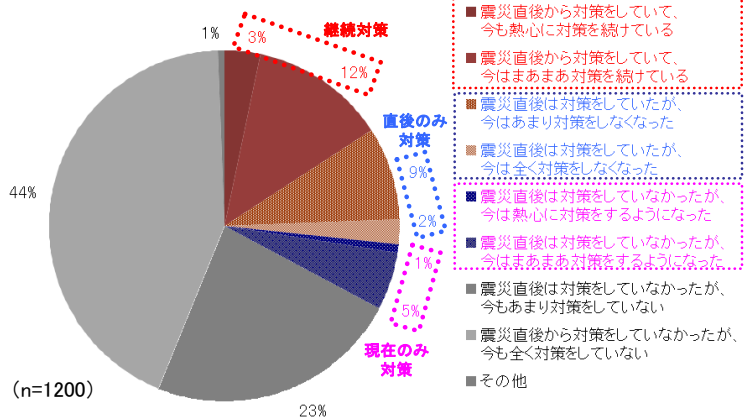
機能性物質による被ばく低減化研究会事務局 (株)プラチナム内／担当：大庭・福田
 TEL：03-5572-6072 / FAX：03-5572-6075 / MAIL：teigenka-lab@vectorinc.co.jp
 【HP】<http://teigenka-lab.com/>

放射線による被ばくを防ぐために、震災直後は「対策をしていた」にもかかわらず、10ヶ月経った現在は「対策をしなくなった」人が増えてます。その理由とは！？

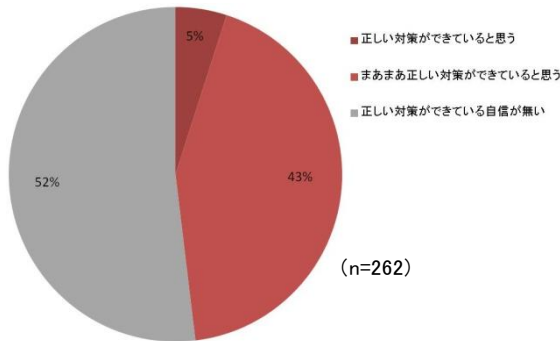
■震災から10ヶ月が経ち、「対策をしなくなった人」が増えてきました。 今、対策を行っている人は、正しい対策を行っているかは半信半疑の状況。

震災直後と10ヶ月経った現在、放射線対策の意識調査をしたところ、震災直後は対策をしていた人が約26%いたが、「今も(熱心に/まあまあ)対策をしている」人は15%で、対策していた人のうち約60%に留まる。残り約40%は「今は(あまり/全く)対策をしなくなった」と、行動が変わってしまった。
今対策をしている人の中で正しい対策が出来ていると思う人は5割未満で、対策には1ヶ月1000円~5000円かけている人が最も多い結果になった。

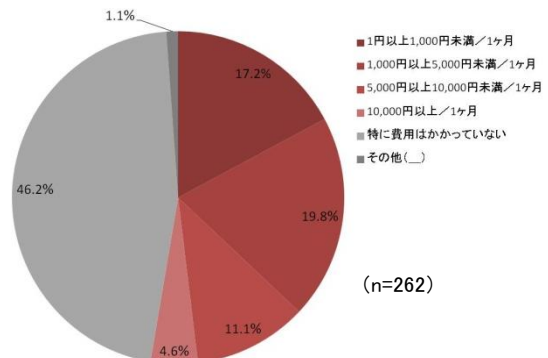
Q1.2011年3月11日に発生した東日本大震災の後、福島第一原子力発電所の事故の影響から、放射線による被ばくの問題が注目されるようになりました。震災直後(3月中旬-4月上旬)と今とで、放射線による被ばくを防ぐためのあなたの行動はどのように変化しましたか。



Q2.放射線による被ばくを防ぐために正しい対策ができていますか。



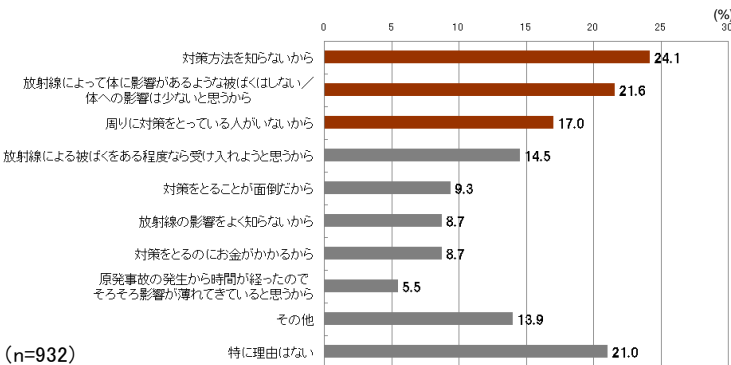
Q3.いま、放射線による被ばくを防ぐための対策に、どれくらいの費用がかかっていますか。大体の金額をお答えください。



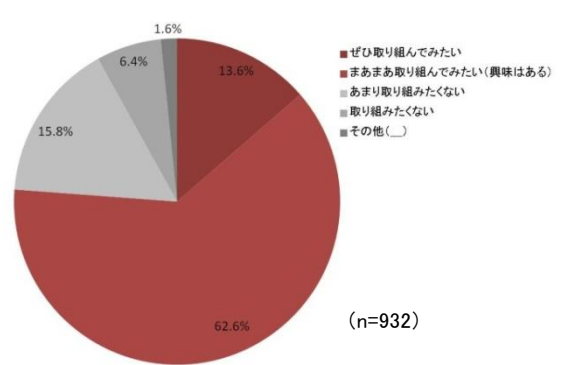
■対策をしなくなった理由として「対策方法を知らないから」が多数

「対策をしなくなった」、「対策をしていない」人にその理由を聞いたところ、「対策方法を知らないから」(24.1%)「放射線によって体に影響があるような被ばくはしない・体への影響は少ないと思うから」(21.6%)、「周りに対策をとっている人がいないから」(17%)の順で回答が多かった。その一方で「対策法があれば取り組んでみたい」と希望する人が約75%という高い結果が出た。

Q4.あなたが放射線による被ばくを防ぐ対策をとらない理由はなんですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。(いくつでも)



Q5.もし、放射線による被ばくを防ぐための対策法があるとした場合、取り組んでみたいですか。



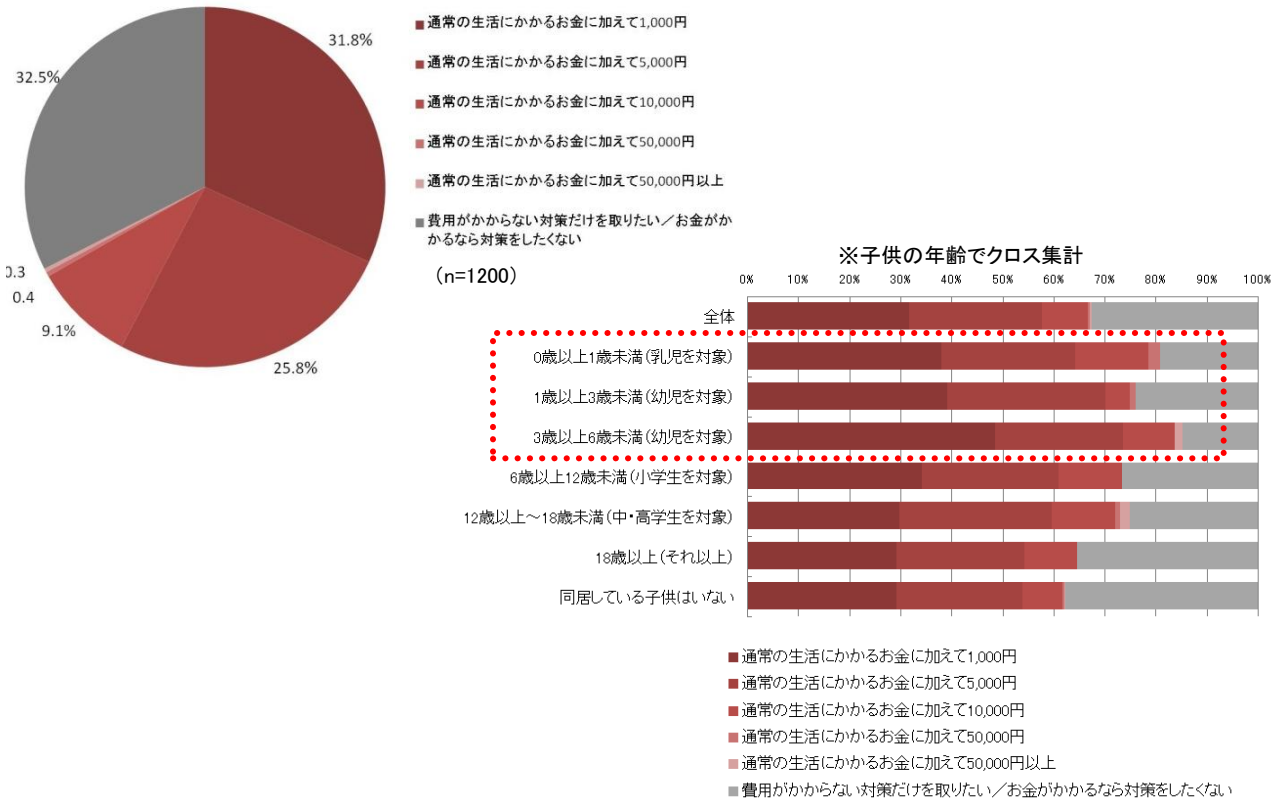
**放射線による子供への影響を心配している親が多数！
その中で、放射線に関する基本的な情報を知っている人は、わずか30%程度！**

■お金をかけても放射線対策したい人は約70%！放射線による子供への影響を心配している親が多数

放射線の影響を低減させるために対策をとる場合、通常の生活にかかるお金に追加でお金をかけられる人は70%と高い結果に。中には月5万円以上かけられるという人もいることが分かった。

お金をかけているのは、特に乳児・幼児を抱えている人が多く、小さい子供への影響を気にしていることが推察される。

Q6.放射線の影響を低減させるために何かしらの対策をとることを想定してお答えください。その放射線対策に費用がかかるとした場合、あなたは通常の生活にかかるお金に加えて、1ヶ月で最大でいくくらいまでならお金をかけられますか。



■放射線に関する基本的な情報を知っている人は、わずかに平均約30%程度。

放射線に関する基礎知識を尋ねたところ、各問いに対して「知っている」と答えた人は全体平均約30%という結果に。中でも、「放射線を浴びることによって発生する活性酸素が人体に悪影響を与えること」(26%)、「活性酸素を除去するとされる物質について」(10.3%)と知っている人が少ないことが分かった。

Q7.以下は、放射線に関する基礎知識です。あなたはこれらのことを知っていますか。あてはまるものをお答えください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

平均約30%

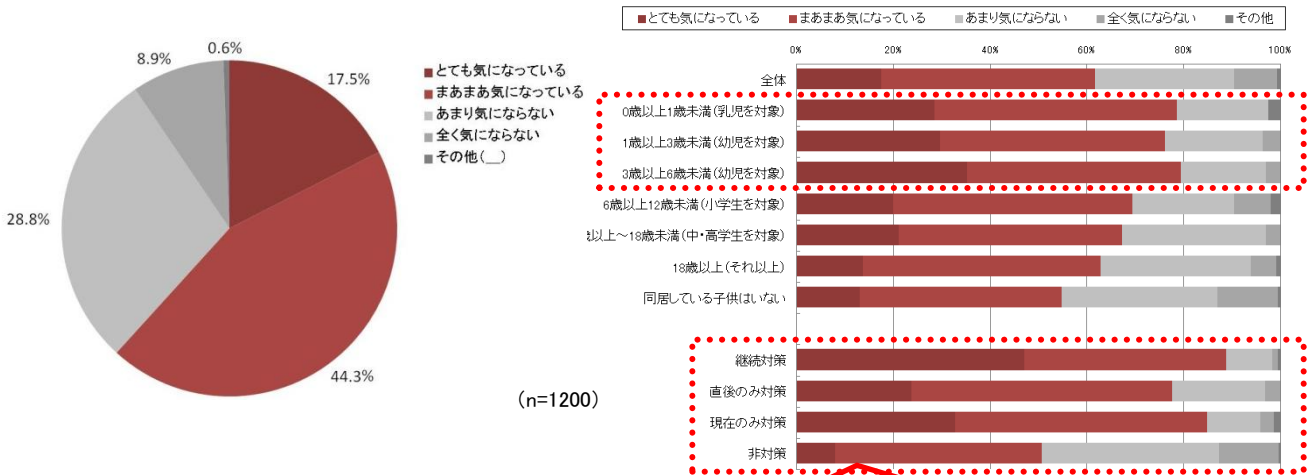
	n	知っている	よく知らないが聞いたことはある	知らない
1.放射線と放射能の違い	1200	30.4	41.9	27.7
2.内部被ばくと外部被ばくの違い	1200	50.1	34.3	15.7
3.放射線を浴びることによって発生する活性酸素が人体に悪影響を与えること	1200	26.0	39.5	34.5
4.活性酸素を除去するとされる物質について	1200	10.3	34.3	55.3

日々の食生活から手軽に放射線対策を行いたいと希望する人は約70%！
手軽な放射線対策に対する興味関心が高まる！

■「食品・飲料」からの放射線による被ばくが気になっている人60%
現在対策をしていない人も「食品・飲料」からの被ばくを気にしていることが判明

「食品・飲料」からの放射線による被ばくが気になっているかどうかを調査したところ、「とても気になる」(17.5%)、「まあまあ気になる」(44.3%)で合計約60%の人が「食品・飲料」からの被ばくを気にしていることが分かった。また、「気になっている」と答えた人の多くは乳児や幼児をもつ人が多く、子供への影響を気にしていることがうかがえる。さらに、現在対策している人としていない人で結果を見たところ、「震災直後は対策をしていたが現在は対策をしていない」人が「気になっている」と答えた人は76%という結果に。気にはしているが対策をとっていないというのが現状だと分かる。

Q8. 原発事故の影響による放射線問題の中でも、「放射線による食品・飲料の汚染」についておうかがいします。
あなたは今、「食品・飲料」からの放射線による被ばくが気になっていますか。

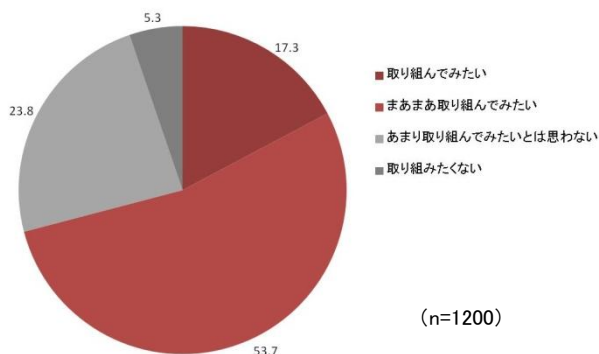


Q1被ばくを防ぐための行動について、
回答された対策別にグループ化して集計

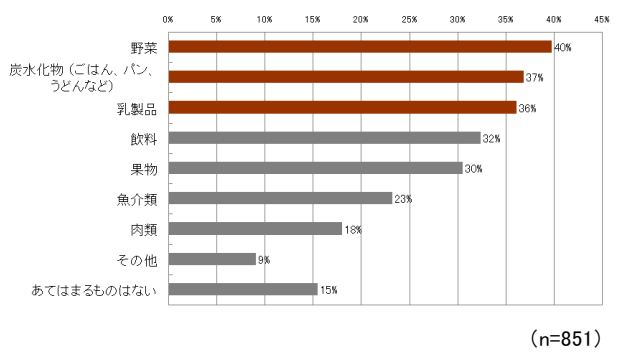
■一方、日々の食生活から手軽に放射線対策を行いたいと希望する人は約70%

普段の食事の中で、手軽に放射線対策が出来るとした場合取り組んでみたいですか？と尋ねたところ、約70%の人が「取り組んでみたい」と回答。また、どんな食品に放射線の影響を低減できる可能性がある成分が含まれていると好ましいかを尋ねたところ、1位が「野菜」、2位が「炭水化物」、3位が「乳製品」と毎日の生活で摂取が多くまた他の栄養素も含まれているものが上位に挙がった。

Q10. 普段の食事の中で、たとえば体内への放射線の影響を低減化できる可能性がある物質を含んだ食材を食べるなどで、手軽に放射線対策が出来るとした場合、あなたは取り組んでみたいと思いますか。



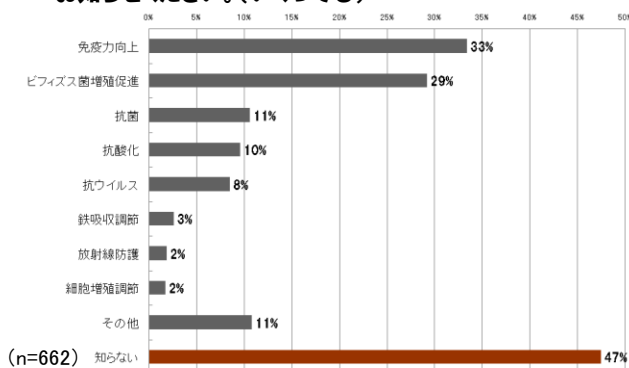
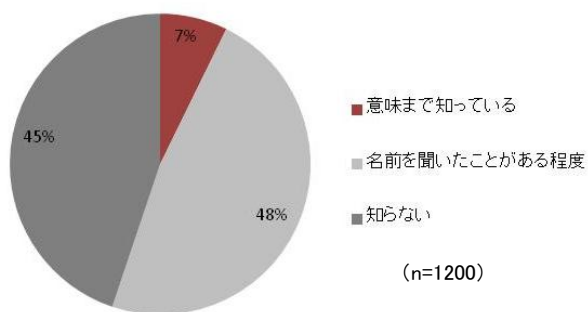
Q11. 放射線の影響を低減できる可能性がある成分はどんな食材に含まれているといいと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。(いくつでも)



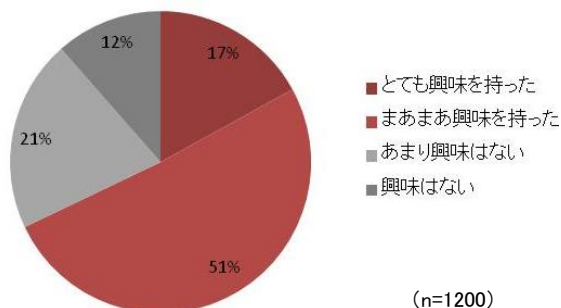
■研究会が機能性物質として取り上げている、「ラクトフェリン」はまだあまり知られていないが、「放射線による被ばくの影響を低減できる可能性がある」と聞くと、興味を持つ人が約70%

放射線による被ばくの影響を低減できる可能のある「ラクトフェリン」について知っているかどうかを尋ねたところ、「名前は聞いたことがある」、「知らない」と答えた人が93%で、ほとんどの人が知らないという結果になった。またラクトフェリンは放射線による被ばくの影響を低減できる可能性があると聞いてあなたは「ラクトフェリン」に興味を持つかと尋ねると「興味を持った」が約70%との結果に。現在は知らない人が多いが、放射線による被ばくの影響を低減できる可能性がある物質だと分かると興味が高まることが分かった。

Q12. あなたは「ラクトフェリン」という物質についてご存知ですか。 Q13. 「ラクトフェリン」の効果についてご存知のものをお知らせください。(いくつでも)



Q14. 「ラクトフェリン」には、摂取することで、放射線による被ばくの影響を低減できる可能性があります。これを聞いて、あなたは「ラクトフェリン」に興味を持ちましたか。



<参考> 機能性物質による被ばく低減化研究会

放射線による被ばくの影響を低減することが期待できる機能性物質の研究推進を目的とした「機能性物質による被ばく低減化研究会」についてのご紹介いたします。

<機能性物質による被ばく低減化研究会>

- 目的:放射線被ばく低減化が期待できる機能性物質の研究推進
- 事業:放射線被ばく低減化が期待できる機能性物質としてラクトフェリンなどを取り上げ、研究を推進、及び、放射線被ばく低減化が期待できる機能性物質の正しい知識、認識を広めるための啓蒙活動を実施する。
- HP : <http://teigenka-lab.com/> ※詳細はHPをご覧ください。

ラクトフェリンについて

■ラクトフェリンの基礎知識

ラクトフェリンは、1939年にデンマークの研究者により、鉄と結合しやすい特性から赤みがかった色をしているため、乳中の赤いタンパク質として初めて報告されました。1960年に単離され、乳(ラクト)中の鉄結合物質(フェリン)であることからその名前がつけました。

■乳の中に含まれるラクトフェリン

ヒトの出産後5日目ごろまでの母乳には100ml当たり約600mg、出産後3週間以降の母乳では約200mgのラクトフェリンが含まれています。ラクトフェリンは殺菌される前の牛乳(以下、生乳といいます)の中にも存在しています。生乳も牛の赤ちゃんを育てるためのラクトフェリンが含まれています。しかし、生乳のラクトフェリン濃度はヒトの母乳の10分の1程度。ヒトの母乳中のラクトフェリンは非常に多いことが分かります。

■ラクトフェリンの働き

ラクトフェリンは母乳だけでなく鼻汁、涙、唾液、尿、女性の子宮けい管のような外部と接触する部分に含まれています。また、炎症が起こった際に病原菌と戦う白血球からラクトフェリンが多く分泌されるということが知られています。このように外部から微生物が侵入しやすい場所に存在したり、微生物を攻撃する白血球が分泌したりすることから、ラクトフェリンが赤ちゃん以外にも全ての年代の人に共通して重要な感染防御成分であることがわかります。

■免疫力を高めてくれるラクトフェリン

私たちの身の周りには、たくさんの病原菌やウイルスが存在し、絶えず感染のリスクにさらされています。また、私たちの体の中では、毎日何千個もの悪性の細胞が生まれています。それにもかかわらず、多くの人が病気にかからずに済んでいるのは、「免疫」と呼ばれるシステムが元気に働いているからです。中でもナチュラルキラー細胞は、がん細胞やウイルスに感染した細胞を最初に見つけ出し、即座に退治してくれます。最近の研究から、ラクトフェリンはナチュラルキラー細胞を元気にする働きをもっていることが解ってきました。動物にラクトフェリンを与えると、ナチュラルキラー細胞の数が増え、ナチュラルキラー細胞の活性が高くなりました。

■ラクトフェリンがしてくれる7つのいいこと

ラクトフェリンについて現在知られている主な機能は、大別して上記に記載の免疫力向上以外に次の7つが挙げられます。7つ目は最近、大きな効果が期待されている放射線防護機能です。

1. 抗菌
2. 抗ウイルス
3. 抗酸化
4. 鉄吸収調節
5. 細胞増殖調節
6. ビフィズス菌増殖促進
7. 放射線防護機能

【本件に関するお問い合わせ先】

機能性物質による被ばく低減化研究会事務局 (株)プラチナム内/担当: 大庭・福田

TEL: 03-5572-6072 / FAX: 03-5572-6075 / MAIL: teigenka-lab@vectorinc.co.jp

【HP】 <http://teigenka-lab.com/>